「何がどうなるわけでもないし、別に気づかない。」

作　サカイリユリカ

登場人物

タカノサチエ
ノザキコウイチ
ミハマカナエ

警官
ニュースキャスター

日村（ひむらー）　サチエのアパートの隣人。誇大妄想家。
益子　　サチエのアパートの隣人。シングルマザー。

ウグイス嬢
大家

薄暗いアパートの１室。タカノサチエの部屋である。玄関の扉が少し開いている。
サチエの後姿が見える。
後ろ姿越しに、警官と思しき人物が立っている。

警官　タカノサチエさん、でいらっしゃいますか。
サチエ　はい、そうですが。
警官　こちら警察です。お子さん、タカノカナエちゃんが先ほど保護されました。
サチエ　そうですか・・・。
警官　お母さん、ですよね？
サチエ　はい。あの、どうしてここに。
警官　カナエちゃんの名札の裏に書いてあった住所がここで。
サチエ　あぁ。
警官　あの。
サチエ　（紙にペンを走らせ）この番号に、連絡してください。
警官　（不審そうに）これは？
サチエ　主人の番号です。
今、別居中ですので。カナエはそっちに。
警官　はあ・・・。
サチエ　・・・ねえ、これでいい？もうすぐ見たいテレビが始まるの。
あたしは無関係。

サチエ、何か言おうとする警官を制し、部屋の扉を閉め、鍵とチェーンをかける。

サチエ　今はねえ、ボタン一つで何でもできちゃうんだよ。
自販機でジュース、は前からか、ネットでお買い物・・ももう出来たか。
駅でスイカチャージするのも、って当たり前か。
でもさ、死刑を執行するのも、テロでピンポイント空爆するのも、
指一本の労力なんだって。
これくらいは知ってるよ、今の私はね。

サチエ、テレビのリモコンのボタンを押し、テレビをつける。
薄暗い部屋にぼんやりと液晶画面が浮かび上がる。

ニュースキャスター　某国での無差別爆撃により、首都市街の爆破された建物から、日本人の死亡者が確認されました。
「ノザキコウヘイ」３３歳、男性、某国へは青年海外協力隊として

派遣されていた模様。
こちらの件に関しましては詳しい情報が入り次第、
追ってお知らせいたします。

サチエ　ノザキコウヘイ、なんて、どこにでもある名前・・・

ニュースキャスター　続いて速報です。
某国の国境を越えたとして、過激派に人質にとられている日本人の
情報が入ってきました。「ミハマカナエ」３３歳、女性、ジャーナリ
ストとして、現地に独断で取材を決行していたようです。
人質の安否については、未だ分かりかねる模様。
引き続き政府は慎重に交渉を続け――

サチエ、テレビを消す。
再び薄暗くなる部屋。

サチエ　ミハマカナエ、なんて、どこにでもいる・・・
コウヘイ。カナエ。
わたし、なにやってるんだろうね。好きでもない男と結婚して、主婦になって、
子供までいる。小説はまだ出版できてない。
あの夏の日。コウイチも、カナエもいた。

暗がりの部屋に、コウイチとカナエがなだれ込んでくる。

カナエ　電気つけて

部屋が明るくなり、コウイチとカナエがいそいそとイスやテーブルを運び、
インターネットラジオ配信の準備を始める。

コウイチ　ほら、なにぼやっとしてんだ
カナエ　ちょとぉ、サチエも手伝ってよ
サチエ　・・・遅いよ
カナエ　なに？
コウイチ　あー、そのイスはそっちじゃなくて、こっちな
サチエ　２人とも、来るの遅いよ
コウイチ　しゃーねーだろ、俺らにも色々あるんだから

カナエ　暇人がよく言うわ　どーせぎりぎりまで寝てたくせに
コウイチ　そーゆーお前こそメイクに２時間もかけてんじゃねーよ
サチエ　もう。いいから。やろ。

サチエの部屋でこれからインターネットラジオの生放送の配信が行われようとしてる。
中央には丸いテーブルと、それを取り囲むように３つのイスが置いてある。
コウイチがノートパソコンを開き、ラジオの生放送が始まる。

コウイチ　さあ、今週もはじまりました！生放送配信ラジオ、「このゆびとまれ」！
カナエ　カナエでーす
サチエ　サチエでーす
コウイチ　コウイチです
今週もこの３人でお送りしていきまーす
カナエ　コメント、なるべく拾ってくよーじゃんじゃん書いて
コウイチ　お、すげ、５００、いや５０００人！？先月より増えてね？
サチエ　あんた、コーフンしすぎ。
コウイチ　５０３０、５１００、お、いい調子じゃん
カナエ　もっとみんな観に来て～
サチエ　１万人集めたいねー
コウイチ　てなわけで今日もアゲアゲでやっていきまーす！
みんなついてきてなー！
カナエ　今日は、シャッフルトークしまーす！
サチエ　新企画です。ここにある紙には、あらかじめお題が書いてあるので、
引いた紙に書いてあったお題をフリートークしまーす！
コウイチ　しかも１人で！
カナエ　言っとくけど「一番楽しかった思い出」とかそんなヌルいのはありませんので！
コウイチ　もっとキワドイやつ？
カナエ　の方が楽しいよね、っていう。
サチエ　緊張するなー。
コウイチ　ま、とりあえずやってみましょうかね。せ～の、シャッフルタ～イム！
カナエ　私から行きまーす！えーと・・・「今だから言える話」。
なんだろうなあー。んー、まだ誰にも話したことないんですけど、
実は私のバイト先、アパレルなんですけど、そこの服屋に、おじさん、までい
かないくらいのお兄さんが服買いに来てて、私が接客したんですよ。
彼女さんへのプレゼントですかぁ～？とか聞いて。結構イケメンだったんで、
あたしもちょっとテンションあがっちゃって。

で、お兄さんもそうなんですー、彼女に服をプレゼントしたいんですけどーって相談して来たもんだから、一緒に可愛い服、選んであげたんですね。
うちでそのシーズン人気だったオフショルダーのチェックのワンピースで、リボンもついててすごい可愛いやつで、その男の人も満足げに買って帰って言って、私も何だかいい気分だったんですよぉ。
でも、その後・・・2か月後くらいかなあ？たまたまテレビつけてたら、ニュースで、「大学生女性誘拐・監禁事件」てのが報道されてて、
あー、なんかバイト先の近くだなあって思ってみてたら、
犯人が女子大生監禁してた自宅の部屋の様子が映ってて、
私、思わずあっ！って指さしちゃったんですよ。だって、そこに、かかってたんですよ。あのワンピが。
あたし、えーうそだーって思って、しかもまあ、うちも一応何店舗か展開してる店だし他の店で買ったんだよねきっととかぐるぐる考えてたんですけど、その後映った犯人の写真が、まさしくあのイケメンのお兄さんで。
まあ、部屋中服だらけで色んなブランドの買い漁ってたみたいだからあたしのとこには別に捜査とかありませんでしたけどね。あれはびっくりしたわー。
え？さすがにお店の名前は言えませんよ～もうそこのバイト辞めちゃったし。
こんな感じで良いかな？これなんか恥ずかしいってか話すの勇気いるね～
そんなことあったんだ・・・。
マジで今だから言える話だね。その事件のことは知らないけど、犯人と会ってたってことでしょ！？やばくね？

サチエ　カナエが誘拐されなくてよかった。

コウイチ　こいつが誘拐されるわけねーだろ（笑）

サチエ　ちょ、どういう意味？

コウイチ　まあ、イケメンだからといって騙されないようにしましょうってことだね～。

カナエ　無理やりまとめたし。

サチエ　次、俺ね。（紙を広げて）えーと、「初めて●●した話」。か。

コウイチ　だれ、このお題書いたのー自分じゃないの？

サチエ　俺ではない。

カナエ　私でした～（笑）いっとくけど、下ネタの振りじゃないからね？

コウイチ　はいはい。俺の初体験は高1ですよっと。
そんな話じゃなくて、じゃあ、あれ話そうかなあ。
俺が初めて事故現場見た話。
まあ、よくほら、電車って人身事故で遅れたりして、正直いらっとするじゃん？誰だよこんな朝のくそ急いでるときに電車止めやがってとか、一度は思ったことあるじゃん？まあ、俺もずっと思ってたわけよ。

でもあれみてからちょっと変わったわ。
夜、だったんだけどさ、ちょうど俺、飲み会の帰りでいい気分で帰りの電車待ってたわけ。終電は近かったけど、そんな大きな駅じゃないからホームに人はまばらでさ、ベンチに座ってお茶飲みながらぼーっと人とか眺めてたんだよね。そしたら一人、女の人がさ、ふらふら～と歩いてきてさ、あ、この人も酔ってるのかな、とか思って、でもまあ気にせずにいたのね。
で、ああ、そろそろ電車来るなあと思って立ち上がって、ホームの白い線まで歩いてって、待ってたんだよ。その女の人の横で。
そんで、電車のあかりが見えて、電車が近づいてくる音がして・・・
そのあと、女の人がジャンプしたのが視界の端っこで見えたんだ。
俺、頭回ってないながらも、これやべえ、と思って、あ、非常停止ボタンあるから押さなきゃ、とか思ったんだけど身体が言うこと聞かなくて。
気づいたら、電車は急停車してたけど、女の人はもう・・・。
なんか、不思議だったよ。その次の日、その駅に行ったら、綺麗さっぱり片付いてて、いつもの駅でさ。当たり前なんだけど。
俺、夢でも見たのかな?とか思ったけど、あの映像はどうしても忘れられなくて、未だに夢に出てくるね。
出た。トラウマシリーズ。

カナエ　え、どうしてうちらに話してくれなかったの？
サチエ　いや、普通喋んないっしょ。
コウイチ　さ、次々！サチエの番だよ。
カナエ　うん。
サチエ　（紙を広げて）「今までで一番怖かったこと」・・・。
こわかったこと?心霊体験とか、私ないんだけど・・。
コウイチ　心霊体験じゃなくてもいいじゃん。
カナエ　そうだよ～あるっしょなんか。一つくらい。
サチエ　昔の話なんだけど。いいかな。
カナエ　もちろん。
サチエ　昔ね、小学生のときくらいかなあ、たぶん誰でも一度はやったことあると思うんだけど、「こっくりさん」ていう遊びあるじゃない。
あれを、放課後に友達と集まってやるのが流行ってたのね。
で、ある日、その日私はたまたまクラブ活動かなんかで、教室に行くのが遅くなっちゃって、部屋の前まで来たら、教室の扉が閉まってて、中でもう「こっくりさん」が始まってるみたいだったの。なんか、最中に途中で割り込む勇気もなかったし、とりあえず廊下で聞き耳立ててたの。

みんなどんなことを「こっくりさん」に聞いてるんだろうって興味があったからさ。子供心にね。
そしたら最初はまあ、「●●くんは私のことが好きですか？」とか、「次のテストで９０点以上とれますか？」とか可愛らしい質問が続いてたのね。
で、こっくりさんが「はい」か「いいえ」かに動いて答えるたびに盛り上がってて。そしたら、普段は明るいＡちゃんが、急に声をひそめて、畑中先生はいなくなってくれますか？って呟いたの。畑中先生っていうのは当時の、うちのクラスの担任の先生ね。もう今じゃさあ、体罰なんて死語だけど、当時はあって。特にその畑中先生は体育会系で、すぐ手を挙げる人だったのね。
女子も男子も関係なく。で、そのＡちゃんはすごくしっかりした学級委員長的な存在の子だったから、先生に口答えしたりしてたの。
だから先生も余計気に食わなかったというか。確かに最近、Ａちゃんのことぶったりしてたなあとか思って、そしたらＡちゃんがさっきよりもはっきりした声で「こっくりさん、畑中先生はこの世からいなくなってくれますか？」って聞いたのね。私びっくりしちゃって。そしたら、今まで騒いでた皆が急に静かになってさ、なんか私、廊下も暗くなってきたしこわくなっちゃって、そのまま走って帰ったの。
そしたら、その日から１週間もしないうちに、その、畑中先生、交通事故で死んじゃったんだよね・・・。

間。

カナエ　サチエ、なにマジになって話してるの、ヒくんですけど（笑）
サチエ　だって、こわかったんだもん！
カナエ　みんな、今日話したことはフィクションも混ざってるから安心してね～（笑）
コウイチ　あー広告うぜ。
「こちらの募金サイトにアクセスして、一日１回クリックするだけで、１円を無料で募金できます！」
これ架空請求だったらどーすんのな
カナエ　はあ？
コウイチ　男子あるあるだよ。エロサイト漁って動画クリックしたら、いきなりすげえ額の請求くんの。なーわかるよな男子諸君。
まあ今日は都市伝説的な話を３本立てでお送りしました！楽しんでもらえたかな？また来週！

３人、視聴者に向かって手を振る。

コウイチ、ノートパソコンの電源を落とそうとして、
別の生放送が気になり、クリックする。

ひむらー　全国の諸君。わたしはひむらーである。
わたしは既に３０分話をした。そして、わたしが以前から、よくわからないが、
ただ内心で感じていただけのことが、今や現実によって証明された。わたしは
演説ができたのだ。その証拠に、この放送を聞いた諸君は一様に深くしている。
である。さらに、私はここから３０分話す。私の言葉が新たなるウィルスとな
って諸君を耳から犯すことを私は何よりも望んでいる。いいか、まず梅毒が青
年を蝕んでいる。病原菌をなくすより・・殲滅を。売春婦も、これに役たたな
い障害者も。ばい菌以下の存在の全ての汚染源である！

サチエ　なにこれ。すごい再生数。
「ひむらー」って・・・。

カナエ　え、昔はやったアムラーの仲間？古くない？

コウイチ　どうせおっさんのたわごとだろ、消そうぜ

コウイチ、ノートパソコンの電源を落とし、画面を閉じる。

コウイチ　今日渋谷歩いてたらさー、知らない人に声かけられちった

カナエ　はぁ？

サチエ　え、ナンパ？

コウイチ　いつもラジオ見てます！ファンです！だってさ。
っくうぅ、俺らもそんだけ人気出てきたってことさね

カナエ　嘘ばっか　どうせ勧誘かなんかだろ

コウイチ　嘘じゃねえよ。でも残念だなー可愛い女の子だったら即ってたのに

サチエ　仮にほんとだとして、ファンに手出すとか最低

コウイチ　なに、妬いてる？

サチエ　妬くわけないでしょ

カナエ　っーか、そういうのなんかやだ。
たくさんの人に見てほしくてやってるけどさー、実際に声かけてくるとかさ、
そういうのめんどい。おとなしくパソコンの前で動画見ててくれてればそれで
いいんだけど。なんで声かけちゃうかな。

コウイチ　なんだよ、いいことじゃねええかよ、こう、人の輪が広がっていく感じ？

サチエ　んなことといったってさ、うちらのって、結局自己マンじゃん。

コウイチ　いや、自己マンですよ

カナエ　なに開き直ってんの。さ、もう帰るよ。

コウイチ　自己マンで結構。世のため人のため―なんてやってらんねぇだろ。
　自分が気持ちよくなれるのが一番じゃね？結局。
カナエ　あたし先帰る。またね、サチエ
サチエ　あ、うん。またね。

カナエ、部屋を出ていく。

コウイチ　お前さ、最近進んでんの、小説は。
サチエ　ん？まあ。ぼちぼち。
コウイチ　そっか。
　（部屋を見回し）つーか毎回言ってっけどテレビくらいそろそろ買えよ。
　いくらお前がさ、モノ書きだからって世情くらいは知っとかなきゃだろ。
　むしろ、なんだ、そういうのに敏感なくらいがちょうどいい
　んじゃないの？
サチエ　いや、うといくらいがちょうどいいと思うけど。だって関係なくない？私が書く話には。
コウイチ　実際の事件ネタにするくらいの野次馬根性、いると思うけどなー
　ここらで一発、やってみたら？ウけるかもよ案外
サチエ　あんたさ、そういう茶化し方やめなよ。そういうのはいいの。
　そういうの書きたい人に任せとけば。あたしはあたし。
　自分の書きたいものくらい、自分で分かってるわけだから。
コウイチ　あっそ。今書いてる小説のタイトルは、なんだっけ？
サチエ　「私がタカノサチエでいられる１３の条件」
コウイチ　なんだそりゃ。
サチエ　小説っていうか、エッセイだね。
コウイチ　よく分からんが、まあ完成したら読ませてよ。じゃ。
サチエ　うん。

コウイチ、部屋を出ていく。

サチエ　一人。一人一人一人―！
　一人大好き。おうちも大好き。
　できればラクして過ごしたい。

　ここのアパート、天井と、下と、左右の壁からは。それぞれ接している部屋の物音が時たま聞こえてきました。

ドタドタ歩き回る音、天井から雨漏り、蛇口をひねった、お風呂場で歌う声、子供の泣き声、何かが壁にぶち当たる音、壊れる音、子供の泣き声、大音量のテレビの笑い声、布団をたたく音、猫の声。
ペット禁止アパートで、猫をこっそり飼ってるなんて可愛いもんですよね。
下の部屋で買ってたみたいなんですけど。
でもそれ、おそらく猫、ある日から全然鳴かなくなったんです。
大家さんにバレたか、どこかに捨ててきたのか、でも私お洗濯するのに必死でそれ以上考えなかった。
でもいいじゃん、そんな毎日で。

外から選挙カーの音が聞こえてくる。

ウグイス嬢　ここ、南地区にお住いの皆さま、こんにちは。
もうすぐ大事な選挙の日、7月31日は大事な投票の日です。
どうか皆さま、「ノザキシンペイ」、「ノザキシンペイ」をどうぞよろしくお願い致します。「ノザキシンペイ」今年もこの南地区から、頑張ってまいります。
あっ、歩行者の方、応援ありがとうございます。「ノザキシンペイ」、皆さまのご声援を胸に、必ずや当選の道を歩んでまいります。
どうか、どうか「ノザキシンペイ」「ノザキシンペイ」に、皆さまの清き一票を、何卒よろしくお願い申し上げます。

部屋のドアが勢いよく開き、コウイチとカナエがやってくる、
コウイチがノートパソコンを開き、ラジオの生放送が始まる。

コウイチ　さあ、今週もはじまりました！生放送配信ラジオ、「このゆびとまれ」！
カナエ　カナエでーす
サチエ　サチエでーす
コウイチ　コウイチです
今週もこの3人でお送りしていきまーす。
今日はねぇ、なんか先週の放送が暗かった！とか言われたから明るく盛り上げていこうと思います！
カナエ　視聴者の皆さんも、一緒にお酒飲みましょー。

コウイチとカナエ、買ってきた缶ビールやチューハイを取り出す。

コウイチ　よっしゃ！イッキ、いきまーす！

コウイチ、缶ビールを開け、一気に飲み干す。

サチエ　おぉ、いい飲みっぷりだねえ！

カナエ　うちらものもー！

カナエ、サチエにお酒を渡す。

カナエ　今日集まってくださった皆様にかんぱーい！

サチエ　かんぱーい！

コウイチ　（２つめの酒を開け）

改めましてーえーあ、この酒は目の前のポプラってコンビニで買いましたぁ

ここ６階だから景色良いよねぇええ

こんないいとこ住みやがってサチエこのやろう

うちらんなかで１人暮らしなのはサチエだけだかんなー

あー、だから俺ら毎回こいつんちでやってるんすよーもう一緒に住むか？

カナエ　誰がお前とサチエを住まわせるか！

外から選挙カーの声が近づいてくる。

ウグイス嬢　ここ、南地区にお住いの皆さま、こんにちは。

もうすぐ大事な選挙の日、７月３１日は大事な投票の日です。

どうか皆さま、「ノザキシンペイ」、「ノザキシンペイ」をどうぞよろしくお願い致します。「ノザキシンペイ」今年もこの南地区から、頑張ってまいります。

あっ、歩行者の方、応援ありがとうございます。「ノザキシンペイ」、皆さまのご声援を胸に、必ずや当選の道を歩んでまいります。

どうか、どうか「ノザキシンペイ」「ノザキシンペイ」に、皆さまの清き一票を、何卒よろしくお願い申し上げます。

サチエ　早く他いってくれないかなあ。

カナエ　もうすぐ選挙だから、しゃーないよ。風物詩みたいなもん。

コウイチ　（ウグイス嬢を真似て）えーこちらは、南区の松原市から発信しております。

近くにはドンキがあって大変便利な住みよい街でございます。

そんな町のグリーンハイツ６階でやっておりますラジオ番組「このゆびとまれ」に一人でも多くの視聴者様を、何卒よろしくお願い申し上げます。

カナエ、コウイチ、サチエ、声をたてて笑う。
天井からドサッ、と何かが落ちる音。
一瞬の静寂。

カナエ　ねえ、何か聞こえなかった？
コウイチ　気のせいだよ
カナエ　選挙の音じゃないよ？
コウイチ　犬だって
カナエ　え？
コウイチ　犬かなんかだよ
サチエ　そうだよ、もう、今度は上の人がペット飼いだしたかあ。嫌になっちゃうなあ。
カナエ　犬って、だって

どこからか赤ん坊の泣き声が聞こえてくる。

カナエ　あれ、猫？
サチエ　だから、このアパートはペット禁止なんだってば。
コウイチ　ほら、ラジオに集中しろよ
おぉ！皆さんの清き1試聴が増え、ついに1万人に・・・！
カナエ　え、マジ！？
サチエ　すごいすごい
コウイチ　こんな機会ないから色々喋っとこうぜ
（サチエを指し）あ、こいつ、サチエは実は作家志望で、将来作家先生になるかもしれませんよー！今のうちに顔を拝んどいてね～！
サチエ　やめてよ、恥ずかしい。
カナエ　あれ、ちょっと待って、

急に、ひむらーの声が聴こえ始める。

ひむらー　わたしの後に続き、諸君が世界へと踏み出すときが来た。すべてを任務に捧げ、休息以外はなにも望むな。平和以外はなにも望むな。人々が思考しないことは、政府にとっては幸いだ。必要不可欠なのは、一人の指導者の意志、一人が命じ、他の人はそれを実行すればよい。統治とは一人で始まり、下で終わるものだ。

コウイチ、パソコンの画面をのぞき込み、操作する。

コウイチ　やべ、こいつにアカウントのっとられたわ
おい！俺たちのアカウントが人気だからって、卑怯だぞ！
ここまで視聴者集めるのにどんだけかかったと思ってるんだよ！
ひむらー　新しい人材を育てたい。退廃と堕落がはびこる時代から、我々日本人の未来を救うために、未来の日本、ならびに世界を担うものは、しなやかであらねばならない。しなやかさと、鋼の強さを！

コウイチ　くそ。
カナエ　ありえない。なにこれ。乗っ取りとか、犯罪でしょ。
コウイチ　（キーボードを打ちながら）「こいつは偽物です。このゆびとまれは乗っ取られました」
サチエ　お客さん、減らない・・・。
カナエ　え？
サチエ　わかんない、乗っ取られたのに気づいてないのかもしれないけど、
ひむらーが喋っててもみんないなくならないよ。
興味なかったら試聴しなければいいのに。なんで・・。
カナエ　どうしよ、こういう場合って、サイバー警察とかかな。
サチエ　やめようよ。そんな。
コウイチ　とりあえず、俺、帰って色々こいつのこと調べるわ。
カナエ　だね。次の放送までにはなんとかしないと。
コウイチ　ほんとゆるせねえ。絶対なんとかこいつにコンタクトとって、俺たちのアカウントを取り返すからな！

コウイチ、部屋を出ていく。
カナエも後に続こうとし、立ち止まる。

カナエ　ねえ。サチエ。そういえば知ってた？お隣さんの名前。
サチエ　知らん。会ったことないし。
カナエ　日村、だって。ひむらー。
サチエ　え、なになに偶然っしょ。
カナエ　わかりませんよー？実は隣でやってるのかもしれませんよー？
サチエ　やめてよ。
カナエ　じゃあね。

カナエ、部屋を去る。

サチエ　　わたしは、２人と、ラジオが出来てるだけで楽しかったのに。

選挙カーの声が更に近づいてくる。

ウグイス嬢　ここ、南地区にお住いの皆さま、こんにちは。
もうすぐ大事な選挙の日、７月３１日は大事な投票の日です。
どうか皆さま、「ノザキシンペイ」、「ノザキシンペイ」をどうぞよろしくお願い致します。「ノザキシンペイ」今年もこの南地区から、頑張ってまいります。
あっ、歩行者の方、応援ありがとうございます。「ノザキシンペイ」、皆さまのご声援を胸に、必ずや当選の道を歩んでまいります。
どうか、どうか「ノザキシンペイ」「ノザキシンペイ」に、皆さまの清き一票を、何卒よろしくお願い申し上げます。

サチエ　　うるさい！うるさくて、全然小説書けないじゃない！
なんなの・・。静かにしてよ、みんな、静かに出来ないの・・・？
選挙より、小説の〆切の方が大事なの。切羽詰ってんの。
何より、このまま２人とラジオできなくなるのは嫌なの。
ひむらー、さっさとあきらめてよ！
ていうか、なんでこーなるかなあ。めんどくさいの、嫌い。
みんなどっかいっちゃえ。

サチエ、床に座り込む。
暗転。

サチエが携帯電話で電話をしている。が、なかなかつながらない。

サチエ　　もしもし、カナエ？今日もう、時間だけど、今どこ？
もしもし、コウイチ？始まっちゃうんだけど、あれから何かわかった？
とにかく何とかしてくれるって言ってたよね？どうなったの？

サチエ、携帯電話を投げ出し、テーブルに突っ伏す。

サチエ　　なんで２人とも来ないんだろう・・・。もう時間すぎてるのに・・。

サチエ、何気なくノートパソコンの電源を入れる。
生放送のサイトに接続すると、ひむらーの放送が流れている。

ひむらー　ある人が政治運動に参加すべきかどうかを迷う時は、大部分が精神的孤独感に捕らわれるものである。そういう時に重要なのは周囲の人々からの心理的影響であり、多数の人々に一種の同列感を持ち始め、次第に彼の心に勇気と力とを生じさせる・・・

サチエの部屋のインターホンが鳴る。
サチエがドアを開けると、カナエが入ってくる。

サチエ　何してたの。
カナエ　ごめんごめん。国民の義務を果たしてまいりました！笑
サチエ　はあ？
カナエ　いや、投票。今日選挙の日でしょ。
サチエ　サチエは知らないかもしれないけど。
サチエ　あのさあ、それくらい知ってますけど。期日前投票とか、いくらでもできるじゃんよ。リスナーさんのこととか考えなかったの。てか、コウイチも来ないし、みんなの期待裏切っちゃったよ。あたし1人で喋れないしさ。
カナエ　期日前投票行こうと思ったけど、別に期日前投票する理由がないから、今日行った。
サチエ　は？真面目か。てかラジオあるでしょラジオが。
カナエ　いや、つーか今ラジオとか言ってる場合じゃないっしょ。そーゆー空気感じなよサチエさあ。
サチエ　なに、そーゆー空気って。選挙行ってたら偉いんか。
カナエ　てかじゃああたしは非国民なんですかー？
カナエ　そこまで言ってないじゃん。表現の自由だよ。
カナエ　うちらがラジオ自由にやれるのも、そういう地盤がしっかりあるからで、そこが根本から揺らぎかかってんだからさ、どっち優先するかなんて、分かることでしょ。
サチエ　でもだからってドタキャンはないでしょ。連絡もないし。
カナエ　いやむしろあたしは、サチエが今日普通にラジオやろうとしてることの方がビビったわ（笑）

部屋にコウイチが入ってくる。

コウイチ　おっす。
サチエ　コイツも選挙か。
コウイチ　いや、デモっす。
サチエ　え？
コウイチ　あ、選挙はもち行った。
カナエ　国会前行ったの？
コウイチ　おう。
サチエ　ごくろうなことで。
コウイチ　え、なに、サッちゃんなんか怒ってる？
サチエ　デモと選挙でラジオドタキャンがまかり通るんですねー知らなかったなー。
コウイチ　いや、裁判員制度で徴収されたら仕事休んででもいかなきゃじゃん。
カナエ　いや、ラジオ別に仕事じゃないっしょ。趣味だから。その例えおかしいし。
コウイチ　あ、そうか。ま、そういうこと。
サチエ　意味わかんない。
カナエ　誰に入れたー？
コウイチ　ノザキさんでしょ。ここは。ねえ。
カナエ　え、なんでよ。
コウイチ　別に、ただ、同じ名字だからか親近感湧いちゃってさ。
カナエ　そんな理由で投票しないでくださいー。
サチエ　カナエはじゃあ、御立派な理由がさぞかしおありで？
カナエ　あたし、難しいことは分かんないけど、単純に街頭演説聞いて、一番こう、熱いものがこみあげてきた人に入れた。
サチエ　なにそれ。
コウイチ　おま、人のこと言えねえし。
カナエ　てかサチエが行かなかったのが驚き。引きこもると食料品の買い出しくらいしか行かなくなるもんなの。
サチエ　引きこもってるわけじゃないし。
コウイチ　まあまあ、あれだよな、小説家は少しくらい世事にうとい方がいいとかって言うもんな。変に影響受け過ぎずにさあ。
サチエ　２人は影響受け過ぎだよ。
コウイチ　え？
サチエ　なんで急に・・・。おかしいよ、今までの２人じゃないよ。
なんでなの？ひむらーの放送見て感化されちゃったの？
意味わかんない。アカウントは乗っ取られたままだし。
めんどくさい。意味わかんない。もう、嫌！
来ないで！

どうにもできないなら、もうラジオできないってことじゃん！
もう帰って！！

サチエ、強引にカナエとコウイチを帰らせる。
サチエ１人になった室内に、ひむらーの声が響く。

ひむらー　どうだ、わたしの言ったとおりだろう。選挙の極意とはこういうものだ。つまり大衆は限りなく愚かだ。大衆は女のように感情だけで動く。だから女をモノにするときのように、優しくしたり威圧したりすれば、大衆も政権も簡単にモノにできるのだ。

青少年も同様に愚かだ。彼らには車とオートバイと美しいスターと、音楽と流行と競争だけを与えてやればいいのだ。
それでシャンペンの空気を抜くように、かれらの頭から”考える力”を抜きとる。あとは車とスターと流行と音楽の力を借りて、ワッとけしかければ、彼らは武器を抱いて地獄の底へでも突っ込んで行くよ。
そのためにも、大衆や青少年には、真に必要なことを何も教えるな。必要がないバカのようなことだけを毎日毎日教えろ。それで競争させろ。笑わせろ。ものを考えられなくさせろ。真に必要なことは、大衆と青少年を操るものだけが知っていればいい。
そしてあとは、”国家のため！”と何千回も呼びかけて、戦わせ殺し合わせるのだ。１人の人間を殺せば殺人犯だが、戦争で１００万人を１度に殺せば、その男は必ず国家から最高の勲章をもらえるぞ。

サチエ　・・もし、どこかの国で戦争が始まったとしても、きっと私の生活は変わらないであろう。無関心を決め込まないことには、この世の中、生きていけないのである。私はタカノサチエであれないのである・・・。

サチエの部屋のインターホンが鳴る。

サチエ　はい。

サチエ、ドアを開けると女性が立っている。

益子　こんばんは。
サチエ　こんばんは。あの。

益子　ああ。ごめんなさい。はじめまして、だったかしら？
私、隣の部屋に住む益子です。
サチエ　あぁ、どうも。
益子　タカノさん、ですよね？
サチエ　はい。
益子　良かった。タカノさん。あの。タカノさんは、知りませんか。
何かこう、最近起こった事件とか
サチエ　事件。
益子　少しでも思い当たること、あれば
サチエ　そうですね
今朝、ゴミ捨て場近くにいる野良犬が、赤ちゃんを産みました
益子　え？
サチエ　あるじゃないですか、下に、ゴミ捨て場。そこに捨てられてた犬がいて、
何匹も生みましたよ。偉いですよね犬って、ちゃんと何匹も子孫遺すんだもん。
人間様は少子化のご時世だってのに。
益子　それ、事件なんですか。
サチエ　私にとっては。
益子　わたし、子供を捨てたのね。
サチエ　え。
益子　いやだから。子供。捨ててきちゃいましたさっき。
サチエ　お子さんを？
益子　安心してください、これで、もううるさくなくなりますよ？
隣で、壁薄いからうるさかったでしょ？
私も、色々やったのに泣き止まないから、
ほら、目覚まし時計あるでしょ？あれって、1回押したらまた何分後に鳴って、
また止めたら何分か後に鳴って・・で、何回か繰り返すと鳴り終わるじゃないで
すか。でもね、あの子、鳴りやまないから。あーこれは壊れちゃったんだなあっ
て。そうだよね、今何でもすぐ壊れるようにできてるでしょ。家電とか。
それで、新しい商品買ってもらえるように。
だからね、壊れたものは捨ててこなきゃって。いつまでも持っててもしょうがな
いし。断捨離断捨離。
サチエ　えーと・・・。
益子　（持っていた菓子折りを私）これ、大したものじゃないけど。良かったら。
サチエ　いいですよ、こんな。
益子　いやいや、そういうわけには。今まで迷惑かけちゃってたわけだし。
騒音って立派な公害でしょ。

私ね、いつかあなたから苦情が来るんじゃないかって心配だったの正直。
でも我慢してくれてたじゃない？偉いなって。
その我慢にも感謝して、ね。（サチエに菓子折りを押し付ける）
サチエ　（勢いで菓子折りを受け取ってしまい）あの、べつに、わたし・・。
益子　そういうことだから。ああ、今夜は良く眠れそう。
今後ともよろしくお願いしますね、タカノさん。

益子、一礼して部屋の前から去る。
サチエ、呆然と立ち尽くしている。
サチエの部屋のインターホンが鳴り響く。続いて、ドアをノックする音。
次第にその数は増えていく。

声　ここ、タカノサチエさんの部屋ですよねぇ？
ラジオ毎回聞いてるのに、最近どうしちゃったのかなあ？
サッちゃん、生のサッちゃんに会いたいんだけど、ここ開けてくれないかなあ？

サチエ　誰だよこの場所曝したの・・・。

外の声は鳴りやまない。
サチエ、ケータイに手を伸ばそうとすると、コウイチの声が聴こえる。

コウイチ　はいはい、通行の邪魔なんで返ってくださいねー。
警察呼びますよー？こんなところで捕まりたくなかったら、
良識のある大人なら帰っていただけますよね？

声、止む。

コウイチが部屋に入ってくる。

コウイチ　ごめんな。なにもできなくて。
サチエ　そんなことない。
コウイチ　住所、バレちゃったな。
サチエ　うん。
コウイチ　大丈夫か？
サチエ　大丈夫だけど、大丈夫じゃない。
コウイチ　だよな。

カナエが部屋に入ってくる。

カナエ　ざまあみろ。あいつら、帰ってったから安心してサチエ。
ここは危険だからあたしと一緒に来て。あたしと逃げよう。
カナエ　なによ、わたし何したっていうのよ、だいたいどこ行くの？
コウイチ　そんな女と行くなよ。俺と一緒にいれば、守ってやるから。
俺の命なんて惜しくないんだよ。絶対守るから。
カナエ　そんなこと言われても、命の危機、ありませんし。
コウイチ　サチエは俺が守るよ。愛する人は俺が守りたい。
死んだって惜しくないよ。
カナエ　口ではどうとでも言えるわよ
じゃああんた、サチエを襲った人のこと殺せるの？
コウイチ　なんでそう話が飛躍するんだ
カナエ　あんたが言ってるのはそういうことよ
サチエ　いいじゃない　別になんともなかったんだし　実際に襲われてないし
平気だよ
カナエ　平気って何　ねえサチエ？こわかったんでしょう？そうだよね？
サチエ　こわかったけどさ、
カナエ　それで？
コウイチ　それでってなんだよ　もうこの話は終わりでいいだろ
サチエも思い出したくないだろうからさ、あんま蒸し返すなって
カナエ　どこにも、誰にも言わないでおくつもり？
コウイチ　じゃあお前はサチエに何してやれてんだよ？
カナエ　あのさあ、あんた男じゃなかったら、サチエの隣になんていられないんだから
ね。それわかってる？
コウイチ　負け惜しみかよ。
カナエ　あの子の作品わかってあげられるのは私だけだから、あんたには分かりっこな
いよ。
サチエ　別に。
カナエ　なに。
サチエ　別にカナエもさ、分かってくれてないよね。
カナエ　えっ・・・。
サチエ　カナエが好きなのは、あたしの作品じゃなくて、あたしでもなくて、
「誰かをわかってあげられてる自分」でしょ。
カナエ　なにそれ。
サチエ　あのさ、ここは

サチエ　あのさ、ここ、あたしの部屋なのね。
それで、２人には今助けてもらえたけど、
でも２人がラジオのことどうにもしてくれなかったし、これからどうかしようともしてくれてないのはゆるせないのね。
しかも、住所さらしたのさ、２人のどっちかしかいないじゃんって私は思っちゃってるの。こんなこと言いたくないけど。
もうさ、終わりにしよう。この部屋のことはわたしが決める。
いいよね？わたし、自分の部屋で自己チューでも
なんで気使わなきゃいけないの？ってか、何に？
コウイチ　そこまで言うなら。
カナエ　サチエ、あたしたち友達じゃなかったの？
そんなこと言われたらさ、こっちだって信用できないよ、あんたのこと。
サチエ　愛想つかされるのも当然か。
２人のもやもや、気づいてたけどあたしどうにもしなかったもんね。
あたしもう、自分の気持ち、わかんないや。
コウイチ　俺、ひむらーについて調べてて、あいつの動画見て、
なんか気づいたんだよね。このままじゃいかんなって。
だってサチエと俺が幸せになるためには、幸せに生きれる社会がまず必要じゃんか。
サチエ　なんなの。いつものコウイチらしくないよ。そんなこと言って。
コウイチ　いや、でもさ。サチエには幸せになってほしいし、本だして売れてほしいし、
これはマジな気持ちだし、だから、そのために俺はできることをしてみようかなって。
カナエ　あたしも同じ。考えるようになったよ。自然とね。あたし、全然馬鹿だし、
頭弱いし、難しいこととかわかんないけど、なんか今まずいことが起きてるってことくらいは分かるんだよね。
コウイチ　あれ？俺今カッコイイこといってるくさくない？（笑）
サチエ　馬鹿。
コウイチ　んだよ。そんなさみしそーな顔すんなって。
カナエ　そうそう。同じ日本にいるんだし、また生きてりゃいつでも会えるんだし。
コウイチ　ご縁があればなー。
カナエ　むしろ、何年後かに会うの、楽しみ。
コウイチ　カナエ、ヒッピーになってたりしてなー。
カナエ　そういうコウイチこそ、ニートのオタクにでもなってんじゃないのー？
サチエ　あぁ。うっせ。

一瞬の緊迫した沈黙。

サチエ　ぶっちゃけ、あんたたちといるとめんどいんだわ。
政治のこととかそんな嬉しそうに話して、さも自分たちは意識高い系ですみたいなアピールしちゃってさあ。あたしはあんたたちと同じ人種だって思われたくないし全然寂しくなんかないよ。

コウイチ、カナエ、無言になる。

サチエの部屋のインターホンが何度も鳴る。
と、同時に部屋のドアを直接ノックする音。
と、同時に部屋の外から警官と大家の声。

警官１　タカノさん、お隣の部屋の日村さんが夜な夜な爆音で変な放送をしているという苦情が近隣の住民から寄せられているのですが、何かご存じありませんか？

警官２　タカノサチエさんでいらっしゃいますか。お隣の部屋の益子さんが殺人・死体遺棄容疑で検挙にかけられているのですが、捜査にご協力願えませんか？

大家　タカノさん、大家ですけれど。この上の階の部屋で、首つり自殺があったんですよ。タカノさん、下の部屋だから何か物音とか聞いたりしませんでしたか？

サチエ、耳を塞いで無視し続け、居留守を決め込んでいる。
しばらくインターホンーやノック、話し声は続くが、やがて止み、
静寂が訪れる。

サチエ、そっと耳から手を放し、脱力する。

サチエ　知らなかった、よ。知らなかったんだ。それで済む話。
嘘。・・気づいてたよ。そんなの、気づくに決まってんじゃん。
でもいちいち気づいてたらやってらんないじゃん。
ちょっと想像すれば、わかることだよ。でも、あたしは気づきたくなかったから、知らんぷりしたの。だって気づいてもさ、あたし何にもできないじゃん！
ていうか、下手なことして、面倒なことに巻き込まれたくないし。
あたしはあたしで過ごしてたいし。いつもの毎日。
だってどうすれば良かったのよ・・・
あーもう、ウソウソウソ！

なーんにも起こってません！なんにもなかったんだよここでは！
少なくとも私の生活は平和でしたよーっとさ！

・・・ねえ、これでいい？もうすぐ見たいテレビが始まるの。
あたしは無関係。
出てって、みんな出てってよ・・・。

サチエ、部屋にあるものを手あたり次第投げ始める。
行き場のない気持ちを誤魔化すかのように。
コウヘイとカナエにもサチエが投げたものが当たり、２人は去っていく。
玄関の声も、だんだん収束し、消えていく。
サチエがものを投げているうちに、テレビの上にあったサチエと旦那、娘の家族３人が映ったフォトフレームが床に落ち、割れる。

サチエ　あっいけない・・。

サチエ、はっとしておろおろと割れた破片を片付けだす。

サチエ　痛っ・・・。

サチエ、痛みに気づいて自分の指先を見ると、破片で切れて血が流れている。
サチエの携帯電話が鳴る。

サチエ　もしもし。・・うん。そう。良かった。
え？うん、じゃあ、代わって。
カナエ？うん。パパとお留守番しててね。パパに代わっ・・
あ、もしもし。うん、ちゃんと書いてるよ。ごめん、嘘だ。
書けてない。ちょっと待っ・・・
・・・私、ちゃんと書くよ。書かなきゃ。
取材も行くし。
え、それはまだ秘密。え？うん、あのね、今、思いついたタイトル。
言っていい？言うね。
「そのゆびとまれ」

サチエ、電話を切る。

サチエ　この指、で、みんなに伝えなきゃ・・。
この世界のこと。あたしにはそれしかできないから。
どうにかするね、なんて言えないから、
できることを、やってみるね。今からでも。
ね、コウヘイ。カナエ。

サチエ、部屋の窓際に立ち、窓を開けて外をみる。
流れ星が一筋、空に落ちていく――

引用文献
アドルフ・ヒトラー「わが闘争」より一部引用

終